

佑啓

ゆ う け い

發行者

社会福祉法人 佑啓会

理事長 里見 吉英

NY 290-0265

千葉県市原市今富 1110 - 1

TEL 0436-36-7611

FAX 0436-36-7612

編集者 広報委員会

ふる里学舎松香園の風

ふる里学舎松香園は、平成二十五年四月一日から社会福祉法人佑啓会が、指定管理者として運営を開始した生活介護事業所です。

松香園は、市川市国分の海抜十九m余りの高台にあります。園庭に立つと、市川市街が眼下に広がり、さらにスカイツリーが春霞の中に望めるという絶好の場所です。夏の一夜を彩る市川市の花火大会の際には、地域の皆様に園庭を開放しているとのこと。また、高台のためか、一年を通して風が吹くことが多いようです。夏の風は涼しさを、冬の風は厳しい寒さをもたらすとか。今は、園庭の木々の若葉をゆらして、清々しい風が吹き抜けており、本当に爽快な気分になります。



牧野 恵子

申し遅れました。私は社会福祉法人佐啓会一年目であり松香園に配属された牧野でございます。自己紹介も兼ねて、私の話に少しお付き合い下さいませ。



私は、生まれも育ちもそして現在も住んでいるのが、千葉市という千葉市っ子です。この三月に、三十四年間おりました社会福祉法人千葉県社会福祉事業団を定年退職致しました。事業団では、養育園（知的障害児入所施設）治療教育室（当時：幼児の個別療育部門）、そして更生園（障害者支援施設）で支援に携わってまいりました。定年退職後も、何らかの形で知的障害のある方々に関わりたいと漠然と考えておりましたが、そこへ里見理事長から佐啓会へのお誘いを頂いたのです。実は、佐啓会にお世話になるきっかけは二十二、三年前の養育園時代にあります。当時の養育園南区で直属の上司と部下ではありませんが、里見理事長と同じ職場になったというこ

縁です。遙か昔の事ですが、当時のことを思い出すと、今でも赤面してしまうエピソードばかりが浮かんできます。そのため、佑啓会へのお誘いは思いがけないどころか、まさに青天の霹靂でした。迷いに迷い、考えに考えました。なぜなら、事業団で年数を重ねるにつれ、仲間が支えてくれたからこそ、仕事を続けることが出来たと実感するようになっていたからです。その思いは、更生園で強度行動障害のある方々への支援に携わるようになってから特に強くなりました。

強度行動障害のある方はどうしても自傷、他害や物壊し等の激しい行動だけが注目されがちです。そういう行動をとらざるを得ないため、一番辛い思いをしているのはご本人なのです。しかし、障害特性に基づく専門的な考え方をとっているとはいえ、当初はなかなか支援の方向性や具体化が難しい状況でした。生活の軸である日中活動への取り組みから支援を開始しましたが、試行錯誤の連続でした。見通しがつかない中で支援は辛いものです。しかし、支援に関する検討・協議だけではなく、悩みや苦しみを打ち明けあえるという、チームのメンバー相互の支え合いが前に進もうとする大きな原動力でした。一人ではない、仲間がここにいるという思いが大切な支えとなりました。常にチームのメンバーに支えられ助けられて、仕事を進める事が出来たのです。

このようにチームの一員として過ごした三十四年間で



周囲に支えてもらって来た  
 ありがたさをつくづく感じて  
 定年を迎えました。そんな私  
 ですの、一人では務まらない  
 と思います、 佑啓会のお誘いま  
 一度はお断りしようと考えま  
 した。しかし、理事長から「仕  
 事は一人ではなく周囲の支え  
 があってやっていける」とい  
 う話を伺い、改めて自分の仕  
 事の取り組み方を振り返りま  
 した。せっかく頂いた機会で  
 す。佑啓会のスタッフと共に、  
 またスタッフに支えられて、  
 自分の出来る事にチャレンジ  
 したいと思うようになりました。  
 還暦を迎えたのに何を青  
 臭い事と思われるかもしれ  
 ませんが、新しい環境で新し  
 いスタッフと一緒に仕事をす  
 る機会を頂いた事に感謝しつ  
 つ、お受けしました。



そのため、四月一日から全力疾走しなければいけないと緊張感をみなぎらせておりました。しかし先日、非常にシヨックな出来事に遭遇しました。通勤時のバスの中で、女子高生が私に席を譲ろうとしたのです。私がバスに乗り込んで座席の前に立った瞬間座っていた女子高生が「ど



うぞ」と言つて立ち上がったのです。一瞬、誰に言つてい  
るのだらうと目が点になりま  
した。すぐに、「私に向かつて  
言っている」と氣付き、あわ  
てて手を振りながら「いいえ、  
いいえ、大丈夫です」とお礼  
も言えず断るのが精一杯でし  
た。

精神年齢が実年齢に追いついていない事が強みだと思ってきましたが、少し気持ちの持ち方を変える事にしました。生涯役とまではいかなくて、生現役とまで長く仕事をしたいと欲張って考えております。そのためには、身の丈に合った頑張りでいきます。

佑啓会のスローガン「明るく、元気に、爽やかに。そして品良く」のうち、「明るく、元気に、爽やかに」の部分に

もう一点、全力疾走出来ない事があります。それは、『ノミューネーション力』がゼロであることです。情けない事に、注射の際アルコール綿で腕を拭かれると、その部分が赤くなってしまう。懇親会等のお酒の席では不調法を

御許し頂き、ノナルコール  
でお付き合います。  
以上、拙い自己紹介にお  
付き合います。  
ありがとうございます。

松香園は、皆様のご協力を頂きながら、これまでどおり通つてこられる方々が満足出来るところ、ご家族が安心して頂けるところ、地域の皆様に親しまれるところでありたいとスタツプ一同考えております。

松香園の園庭の木々は、一年を通して風に吹かれて揺れることが多いようです。いつも清々しい風が松香園に吹きますように。また清々しく、しかも心に温かさを感じさせる風が松香園から吹き渡るように取り組んで参りたいと思います。今後とも皆様のご指導のほどよろしくお願いいたします。

（ふる里学舎松香園 施設長）

名称：ふる里学舎 松香園

郵便番号：272-0834

住所：千葉県市川市国分 3-20-2

電話番号：047-373-0482

E-Mail:fgakusya-syoukaen@iris.ocn.ne.jp

実施事業：生活介護 50 名

特定相談事業、日中一時支援事業

# 出会いの恵み

安藤 純代

息子の哲郎が「ふる里学舎」に通わせて頂くようになってから、早いものでもう一年が過ぎようとしております。この一年間は親にとっても息子にとっても文字通り初めての体験が多く、ハラハラ、ドキドキ。でもとても充実した大きな成長の時であったと思います。特に指導員、支援員の方々には障害を理解していただいた上に忍耐強く、そして温かく接していただき、感謝の気持ちでいっぱいでございます。初めは硬かった息子の表情が日を過ごすごとに月を追うごとにほぐれてきて、一日の出来事を「ボソッボソッ」と話してくれるようになった時には思わず胸を撫で下ろしてしまいました。

息子が「高機能自閉症」という診断を正式に受けたのは、彼が中学二年生の時のことでした。奇しくもその日は私たち夫婦の結婚記念日。(しかもそれが「障害者の日」であることを知ったのは、もう少し後になってからのことでした。)

今思えば小さい頃から「他の子どもとはどこが違うな」と思われる点がたくさんありましたが、オウム返しが多く、集団のごっこ遊びが出来ない。絵を描いても訳のわからない数字や文字の羅列になってしまふ。極端な偏食やこだわりの強さ、しつこさ…。そして、何故か(教えてもいないのに)カレンダー計算の異常な速さ。全く事情を知

らない人は、見かけのフツーさから「大物だね…」などと笑って励ましたりしてくれましたが、その言葉が逆に悶々として過ごした日々もありました。

今でこそ高機能自閉症(アスペルガー症候群)は認知度もアップして、書店に行けば山ほどの専門書が並んでいますが、当時はまだあまり知られておらず、とてつもない十字架を背負ってしまったのではないかと暗い気持ちになつてしまいました。

しかし、神様は本当に素晴らしい方だと思えます。弱く小さく、いびつな存在にも限らない愛と憐れみを注ぎ、日々を導いて下さいました。あちこちで起こしたトラブルや採め事は数知れず、交番などから直接電話を頂いた時などは「寿命が縮むのでは…」と思つた事も度々ございましたが。



昨年三月、大学を無事卒業した息子は、幸いにも二次障害等にかかることもなく「ふる里学舎」で社会への第一歩を踏み出すことになりました。オープンなクロロイズか、手帳の申請をするべきか、いろいろと悩んだ時期もありましたが、息子が一番息子らしい姿で伸びやかに暮らせることが大切なのではないかと思ひ、障害者としての就労の道を選ばせていただきました。

そんなミカンがたわわに実つており、「大丈夫だよ。そのままの君をまるごと応援して行くよ。」と言われたようでも、とても温かい気持ちになりました。

現在息子は、市原市役所の「チャレンジ雇用制度」のもとで働かせていただいております。手帳を申請しに行った障がい者支援課の二階の窓口の奥で、わが息子が微力ながらも皆さまのお役に立っているのだと思うと、胸が熱くなつてまいります。

まだまだこれからが本当のチャレンジであり、スタート台に立つたばかりなのかもしれません。親も子も、まっすぐ前を見て力強く歩んで行けたらと思います。

これまで小・中・高・大と、すべて健常者の中で過ごしてきた私も、本当に無知の固まりで障害者やその置かれていた厳しい社会状況について全くもって何も解かっておりません。どうか宜しく御寛恕いただきまして、末永く御指導いただけますようお願い申し上げます。

この素晴らしい出会いの恵みを与えてくださった神様に感謝しつつ。

(安藤哲郎さん母)

## 至福の時

行場 貴子

若葉の輝く季節を迎えました。新年度がスタートし、早一ヶ月半が過ぎました。年度当初の慌たしさも和らぎ、新規の利用者さんや新人職員も少しずつ慣れてきた様子で、皆さん落ち着いて作業に取り組み、生活を楽しんでいます。

昨年度の話で大変恐縮ですが、年度末の忙しい三月二十日から三泊四日でもまいりましたサイパン旅行のご報告をさせていただきます。



思い起こせば、昨年四月一日の辞令交付式の際、里見理事長の行場はどなたか?」の一言が始まりでした。新人職員の辞令交付が終了し、理事長の講話の為、席を移動し始めたところ、前述の声。新年度早々、何かしでかしてしまつたか?とビクビク、ドキドキしながら理事長の元へ歩み寄りました。

何処でも、いつでも、何日でも良から行つてらっしゃい。お母さんと。」の言葉とともに、プレゼントされたのは海外旅行。最後の「お母さん」とは若干の抵抗がありましたが、職員皆様からの拍手に照れながらも手渡された立派な祝儀袋にただただ、嬉しい驚きでした。その日のうちに実家へ行き、理事長の言葉通りを伝えると母親も大喜び。いつ、どこへ行こうか。と、それからは実家へ行く度に計画を練りながら来るべき出発を楽しみに待つ母娘でした。秋頃、飛行機が三時間程度の近場がよいという母親の希望を叶えられる日を楽しみに…。

ところが、昨年の夏は残暑が厳しい日が続き、もともと暑さに弱い母親は体調を崩し、齢八十歳を迎え体力的にも自信がなくなり、季節は短い秋から冬へと移り、楽しみにしていた旅行も二の足を踏む有様でした。年が新しくなり、暖かい春が来ればいよいよ決行の運びとなると信じていました。

らが大変、時間は残り少なく、小石川の人達からも「行くのか。」と心配され、何より誰かお友達を捜さなければなりません。何しる急なお誘いなので人選も難しく、そんな中、竹馬の友のK子さんが二つ返事でOKしてくれました。



サイパンでの三泊四日は、よく遊び、よく食べ、よく飲み、夢のようなひとときでした。日中は、昨年の職員旅行の沖縄で陽の目を見る事なかつた水着を着込んでマリンスポーツに興じました。妙齢の婦人々二人があられもない声をふりあげながら大海原を疾走するバナナボートは、周囲の人をも楽しませたに違いありません。また、島内観光や免税店でのお土産巡りで疲れた身体は、エステサロンの賢沢コースに委ね、「美」と癒しのひとときを堪能しました。

た。ホテルを去る最後の最後まで、アクテブに、そして優雅に大人の旅を味わい尽くしました。

最終日、荷物整理の為にスーツケース、母親から借りたものの底のファスナーを開けると、定期入れと袋が出てきました。定期入れは二年ほど前に「なくなった。」と大騒ぎしていた代物、袋の中には家族の写真や、父親の戒名の「C」が丁寧に畳まれて入っていました。

た。海外旅行も含めて、旅行の際は父親、宋も一緒にという気持ちだつたのでしよう。幼馴染のK子さんがおばさんらしいね。」と二人で写真を眺め、母の思いを感じ、ほのぼのとした気持ちになりました。

成田到着時は、定期入れと写真類が出てきたことをすぐに連絡したのは言うまでもありません。翌日、スーツケースを返しがてら旅行の報告をしに実家へ行きました。が、お土産の高級香水や名物菓子には目もくれず、定期入れや写真を愛おしそくに手にしていた母曰く、「一緒に旅行に連れて行つてもらった気持ち。」と言われ、改めて昨年の辞令交付式で理事長から「お母さんと一緒に。」の言葉をかみ締めました。

母娘でとても良い思い出となりました。本当にありがとうございました。

ふる里学舎小石川 施設長



編集後記

アベノミクスが唱われる日本。巷では景気回復の明るいニュースが多く聞かれるようになりました。ふる里学舎も新たな指定管理事業所の受託や新規事業のスタートに伴い、職員が三四〇人となり、活気ある年度初めとなっています。今年はどういうような仕事を担当し皆さんのお力になれるのか期待に胸を馳せています。社会人として、一人の支援員として、皆さんの明るい笑顔がもらえる仕事ができるように励みたいと思います。

「佑啓84号」をお送りします。



皆川 洋輔